

作成 令和4年12月22日

摂津市議会議員 松本暁彦

令和4年第4回定例会一般質問

～本会議3日目・令和4年12月20日～ 議事録(抜粋)

3 加速する少子化に対する子育て支援策強化の必要性について

質疑概要

今年の出生数は国の統計開始以来、初めて80万人を下回るペースで、想定より8年も早く少子化が進む危機的な状況となっている。超過死とも合わせば、日本の人口減少は顕著となり、国の政策が不十分であることが明らかとなっている。

待ったなしの状況に地方自治体としても、少子化対策の取組み、特に子育て支援策の強化が必要であり、その視点で質疑を行った。

○松本議員

3 加速する少子化に対する子育て支援策強化の必要性について、今年の出生数は国の統計開始以来、初めて80万人を下回るペースで、想定より8年も早く少子化が進む危機的な状況となっています。超過死とも合わせば、日本の人口減少は顕著となり、国の政策が不十分であることが明らかとなっています。

待ったなしの状況に地方自治体としても、少子化対策の取組み、特に子育て支援策の強化が必要ですが、どうお考えかお聞かせ下さい。

(略※)

○福住議長

次世代育成部長

○次世代育成部長

子育て支援策強化の必要性についてのご質問にお答えいたします。

令和2年度に策定されました「摂津市行政経営戦略」においては、「暮らしにやさしく笑顔あふれるまち」と言うまちづくりの目標を定め、「妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援体制を充実させるとともに、すべての子どもがのびのびと健やかに成長できるよう、地域全体で子育てを支援する環境づくりに取り組めます。」という施策の方向性を示しており、ここ数年、「こども」を予算編成の重点テーマに掲げております。

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]

また、国においては、令和5年度からの「こども家庭庁」の創設や、今般の児童福祉法等の改正による「子ども家庭センター」の設置などにより、少子化対策など、以前からの課題のほか、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへの包括的な相談支援の強化といった今まで比較的手薄だった分野にも力を入れていくなど、こども政策をより推進いく方針が示されております。

こうした国の動向からも子育て支援策の更なる充実が必要であると考えております。

(略※)

○松本議員

次に子育て支援策強化の必要性について、国の動向も踏まえ、子育て支援策強化の必要性を認識していると理解しました。

それを踏まえ、子育て施策を強化・推進していくにあたっての課題についてどうお考えかお聞かせください。

○福住議長

次世代育成部長

○次世代育成部長

子育て施策推進の課題という質問にお答えいたします。子育てがしやすい環境、子どもを産み育てることが幸せだと実感できるまちを実現するためには、結婚、妊娠、出産、子育て、教育、就労等の各段階等に応じた切れ目のない支援が必要であり、そのため国は、子ども家庭庁を司令塔として、本格的に、こどもの支援策を推し進めようとしております。

本市では、すでに教育委員会次世代育成部に子育てに関する施策の所管を集約しており、その強みを活かしていく必要があると考えております。

一方で、平成31年度の子ども・子育て支援ニーズの調査の結果で、市役所に充実してほしい子育て支援サービスについては、経済的援助、医療体制、居場所などが高くなっていたことから、今後も様々な観点から、子育て支援策を推進していくためには、国や府の補助金を含めた財源の確保や地域の人材を始めとするマンパワー、NPO法人を始めとする団体との連携等が課題となって参ります。

○福住議長

松本議員。

○松本議員

予算や人手不足といった課題があるものと理解しました。

国も遅いながらも力を入れ始めています。国との連携も重要です。

そこで国による子育て支援策として実施される「出産・子育て応援交付金」の内容と進捗状況について、また来年度に向けての市の新たな子育て支援策が必要と思いますが、どうお考えかお聞かせ下さい。

○福住議長

次世代育成部長

○次世代育成部長

国の補正予算として成立いたしました、「出産・子育て応援交付金」事業についてですが、妊娠期の面談、そして出産後も面談・相談に応じながら必要な支援へとつなげる伴走型相談支援、この充実と、妊娠届出時と出産届出時に給付する合計 10 万円相当の、経済的支援の一体実施とされております。

これらは、原則、国が 3 分の 2、都道府県と市町村がそれぞれ 6 分の 1 を負担するもので、11 月 22 日に、国における第 1 回目説明会が実施され、12 月 26 日に 2 回目の説明会が予定されているところです。

来年度に向けた新たな子育て政策についてですが、この国による統一的な事業を単に実施するだけでなく、市としての独自性をこのタイミングで出すことが有効であると考えていますが、その内容や考え方については、今後、検討、調整して参りたいと考えています。

○福住議長

松本議員。

○松本議員

10 万円相当の経済的支援、伴走型相談支援は期待されるとともに、市の独自性も是非とも出して頂くことを要望致します。

繰り返しになりますが、加速する少子化は、持続可能な社会への危機的課題であります。支援策強化が必要です。

ただし、予算は限られています。そのため政策の優先順位を高め、予算配分も高める必要がありますが、政策全般を踏まえ、市の見解をお聞かせ下さい。

○福住議長

市長公室長

○市長公室長

子育て支援策等の予算配分を高める必要性についてのご質問にお答えいたします。

令和 3 年の合計特殊出生率の全国平均が 1.30 と 6 年連続で前年を下回り、全国的に少子化がますます進行する中、「こども家庭庁」の創設は、こども政策等の新たな転換期になるものと考えております。

本市におきましては、これまでも「こども」を重点テーマに掲げ取り組みを進めており、平成 28 年には人口減少対策として子育て支援や地域活性化の取り組みをまとめた「摂津市まち・ひと・しごと創

生総合戦略」を策定し、現在は、「摂津市行政経営戦略」のもと、子育て支援等の充実に努めてきたところでございます。

今後の本市の子育て支援策等に係る予算配分に関しましては、本市が直面する様々な課題に対して、バランスを考え配分していく必要もございましたが、持続可能なまちづくりにおいては、子どもを産み育てていくための環境のさらなる充実は、欠かせないものであると考えております。

○福住議長

松本議員。

○松本議員

これまでもしっかりと取り組んできたことは理解しました。その上で、さらなる充実が欠かせないという認識と理解しました。

是非、この危機的な状況において市長にも子育て支援策強化への予算配分を高めることの必要性についてお考えをお聞きしたいと思います。

○福住議長

市長

○森山市長

既に色々と説明しておりますけれども、今日の他の質問の中で、市長になった時、一番最初に小学校の統廃合に取り組んだ、非常につらいことでありましたけれども、そういう経緯がございますが、その時に、同時に強調したのが、子どもの安全安心、子どもの安全対策の強化、これの声を大にしたことを覚えております。

この事は、平成18年ですが、には「子どもの安全安心都市宣言」へとつながったわけでありまして、その後、ずっとそうだったと思いますけれども、この宣言に基づきまして、毎年の予算を組む時には、子育て支援、これを重点項目の一つに取り上げてきたわけでありまして。

先ほどから担当が説明いたしましたけれども、今、各地で人口減少、これに非常に頭を痛めているわけではありますがお陰様で、現在のところ、市としては出生率が高いまちになっております。

こうしたことも今後の努力なしには維持していくことはできません。そういう意味では今後も子育て支援や少子化対策に力を入れていかねばならないと思っております。

ただ、一方で午前中に言ったかも知れませんが、急激な高齢社会の色んな課題も山積みになっていることもしっかりと頭に入れておく必要があります。そういうことで福祉のまちづくり、と言いますけれども、幅が広く、奥が深い、これでいいという到達点があるようで、ないんですね。

そういう意味で、限られた財源、限られたマンパワーの中で、如何にこれ、目的を達していくか、色々ご指摘頂いたこともね、参考にさせて頂いて、子どもは勿論、弱者の視点ですね、しっかりと予算編成に臨んで参りたいと思っております。以上です。

○福住議長

松本議員。

○松本議員

ありがとうございます。

「こども」を重点テーマとして予算への反映を是非とも要望致します。

加えて「こども」というフィルターを全ての施策で改めてしっかりとかける必要があります。例えば、JR千里丘駅西地区再開発では、そのコンセプトで子育て世代をターゲットにしています。健都や高齢施策といった様々な政策においても、工夫し、「こども」関連以外からも子育て支援を充実させることで、取り組みは増進できるものと考えます。

よろしくお願い致します。

(音声データ等より作成)

重要と思われる部分には強調を入れています。

※当該質問に関係のない他の質問項目の部分は省略しています。

<一般質問・項目一覧>

- 1 増加する救急出動数や火葬件数等と超過死等の状況について
- 2 新型コロナワクチン接種
 - (1) 副反応による健康被害と情報提供について
 - (2) 制度開始から過去最多の健康被害認定と救済制度申請への支援について
 - (3) 乳幼児接種等への希望申請制について
- 3 加速する少子化に対する子育て支援策強化の必要性について**
- 4 子どもの居場所づくりの強化について
- 5 児童虐待防止での保護者ケアの重要性について
- 6 マスク着用の弊害と黙食等の小中学校の対応について

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]